

---

**魔法少女リリカルなのは もしなのはに最強形のチートを持った外道が憑依したら・・・・・・・・**

リベリオン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは もしなのはに最強形のチートを持った外道が憑依したら・・・

### 【Nコード】

N6907Z

### 【作者名】

リベリオン

### 【あらすじ】

もしなのはに最強形のチートを持った者が憑依したら・・・  
と考えていたら思いついたモノです。原作ブレイク、キャラ崩壊、最強形、外道、他の転生者（かませ犬）とゆう要素があります。

やじつやひ転生できるらしい……チートもくねるらしい……なら遠慮なくいただ

この作品は妄想の産物です。

どうやら転生できるらしい……チートもくれるらしい……なら遠慮なくいただ

俺は死んだ。

こんな始まり方ですまないと思うが本当に死んだんだ。

死因は餓死……

一般人で平凡な俺が何で餓死なんてしたと思う？普通は餓死なんてしないだろ？でもしちゃったんだよ。

ちょっと回想でみてみよう……

—————回想

3

俺はついこの間をきた地震のせいで家具が倒れた。

そしてその家具の倒れたところには魔法少女リリカルなのはのDVDがあった。

そしてディスクは砕け散った。

翌日……

俺は砕け散ってしまった魔法少女リリカルなのはのDVDを買いなおすために銀行にお金を下ろしに行った。

そしてATMでお金を下ろしてるといきなりマスクをかぶった男達が銃を持って銀行に入ってきた。そして…

パーン

いきなり俺の脚を撃ってきた。

俺は痛みで気を失った。

次に目が覚めた時はどっかの倉庫だった。体は鎖とロープで柱にくくりつけられているようだ。

なぜここにいるのか理解できない俺は近くにいた銀行強盗に聞いてみた。

銀行強盗曰く、あの後、すぐに警察がきて銀行強盗達は逃げ出そうとしたらしい。その時に人質として俺が選ばれて連れてこられたらしい。

そうして銀行強盗達は倉庫から出て行った。そして俺はそのまま誰にも気づかれぬまま餓死した。

—————回想終了

こうして俺は死んでしまい、今は天国に行く最中です。火の玉状態ですが……

「なかなか運が無い死に方じゃな。」

なんだ？声が頭の中に響いている！……まあ火の玉状態なので頭がどこなのかわかりませんが……

「わしは最高神ゼウス！お前達人間が言うところの神じゃ。」

神？なんで神が俺に話しかけてくる？大体なんで俺は心で話してるんだ？

「それは気にしたら負けじゃ。」

ところで、まさかよくSSである神のミスで死んじゃった。ってやつか？

「いやただ珍しい死に方をした人間がいたから見に來ただけじゃ。」

同情するなら金をくって違う違う………同情するなら命をくれ！！！！！！！！

「お主は家なき子か！」

いや、命なき子です。

「お主、なかなか面白いことを言うの。」

今のは面白いのか？

「ふむ。なかなか面白いことを言った褒美としてお主に新しい命をやるぞ。」

え！マジすつか！

「うむ。マジじゃ。」

アニメや漫画や小説の世界でも……

「OKじゃ。」

チート能力は？

「問題ない。どんなことでもやってやるう。」

なら転生する世界は魔法少女リリカルなのは世界でお願いします。

「わかった。一応、平行世界にしておくから何をしてもいいぞ。」

あざーす。じゃあ次の能力は………とりあえず『ザ・ワールド』も  
らえます？

「いきなりチート能力じゃの。たが問題ない。わしからサービスで  
時間を止めていられる時間は無限にしてやるう。」

ちよWマジですか！

「やるなら徹底的にじゃ。」

さすが神様！じゃあ遠慮なく行かせてもらっせ。まず……

『アルファ・ステイグマ複写眼』が欲しい。ああ、一応何でも解析できるようにして欲しい。

「了解じゃ。これもサービスで暴走はしないようにしてやるう。」  
次は『万華鏡写輪眼』が欲しい。天照や須佐能乎はいらないからコピーする事に特化してほしい。でも月読は絶対にくれ。

あと視力は何をしてしても失わないようにして。

「了解じゃ。それじゃあサービスでイザナギを使えるようにしてデメリットは無しにしてやるう。」

それって絶対倒せないよな……えっと次は刀語りの七実の『見稽古』をくれ。

「わかったのじゃ。一応、どれだけ全力を出しても体が壊れないようにしてやるう。」

サンキューつと次はニードレスの『ポジティブフィードバック・ゼロPF・ZERO』をくれ。

「わかったのじゃ。サービスは全てのフラグメントを覚えてる。でよいじゃろ。」

完璧です。じゃあ次は『スキル・ジ・エンド能力完成』をくれ。

「任せておけ。今回のサービスは……」

今まで言った能力を全部同時に使えるようにして欲しい。

「ん？どうゆう事じゃ？」

まず『複製眼』で相手の技や魔法を解析。そして『万華鏡写輪眼』アルファ・ステイグマと『見稽古』で解析した技や魔法をコピーする。『PF・ZER0』ボジティブフライドバック・ゼロでコピーした技や魔法を増大して強化する。そして、『能力完成』スキルジ・エンドで完全に相手の技や魔法を強化したモノを完成させる。

「お主……なかなか面白い事を考えるの。」

それで、できるの？

「問題ないぞ。」

じゃあよろしく。あとはあらゆるエネルギーを使えるようにしてほしい。

「たとえばどんなのじゃ？」

とりあえずリンカーコアの魔力とネギま！の魔力。 Fate/stay nightの魔力、ゼロの使い魔の精神力、 NARUTOのチャクラ、気、霊力、妖力、神力、生命力、とかだね。

「了解した。一応ほかの世界の能力も使えるようにしておこう。」

あとは……収納用に『ゲート・オブ・バビロン王の財宝』、それと『アンリミテッドブレイドワークス無限の剣製』も頂戴。

「了解じゃ。『ゲート・オブ・バビロン王の財宝』の方には全ての宝具の原型と全てのロストロギアの原型を入れておこう。『アンリミテッドブレイドワークス無限の剣製』には別の世界の剣も入れておくぞ。あと両方とも指を鳴らすだけで出てくるようにしておいたぞ。」

了解ーあと人としての限界を突破できるようにして。あとは全ての

才能をちょうだい。あと多重思考も。

「わかった。能力は元から人外まで上げておくぞ、お前さんだけではさらに上までいけるようにしてあるぞ。あと才能は『見稽古』とは別にしておいたから七実の才能＋全ての才能＋元から持つ才能にしておいた。多重思考はざつと50ぐらいは使えるようにしておいた。お前さんではさらに増えるぞ。」

あい。

「もうないのか？」

これだけあれば十分だろ。

「そうじゃな。また何か必要になったら言うてこい。3つだけなら叶えてやる。」

サンキューじゃあ飛ばしてくれ。

「転生先は海鳴市でいいよな」

おう。問題ないぜ。

「では、行ってこい。」

そして俺は行き成り眠気に襲われて意識をてばなした。

そして次に目が覚めたらそこは知らない天井が視界に入った。

「あつあつあつあつあつ……」(知らない天井だ……)

on 言えなかった。どうやら赤ちゃんになったみたいだ。

今は夜らしく人の気配はしない。

情報を集めるのは朝になってからだな……

とりあえずすることが無い俺は自分の中にあるリンカーコアやネギま！の魔力。 Fate/stay nightの魔力、ゼロの使い魔の精神力、 NARUTOのチャクラ、気、霊力、妖力、神力、生命力、の確認をして時間をつぶした。

やじつやら転生できるらしい……チートもくねるらしい……なら遠慮なくいただ

感想お待ちしております。

なのはに転生！？……（いえ憑依ですb Y作者）（前書き）

もはや語る言葉はない……かもしれない。

なのはに転生！？……（いえ憑依ですby作者）

俺が転生した翌日……俺は神を呪った。

俺の母親は高町 桃子さんでした。もちろん父親は高町 士郎……

家族構成はシスコンの代名詞として上げられるほどのシスコン高町 恭也そして、原作では特に何も無い高町家で一番普通？そんな人の高町 美由希……

そして、俺の新しい名前は魔砲少女で有名な 高町 なのは だそう  
うだ。

あれだね……性別が変わる可能性は理解していたけど（神に頼み忘れていた。）まさかなのはになるとわ……あ！なのはって事は砲撃ができる！うほ！マジで！

そう考えたら何かがみなぎってきた。

そういえば昨日確かめた時になぜかリンカーコアが2つ確認できた。片方は桃色でもう片方が青色のだった。

もしかして桃色のってなのはのリンカーコアなのか？そうになると俺が神にもらったリンカーコアが青色か……

とりあえず今は赤子……立てるようになるまで待つか……

そうゆえば視界になにか線のようなものが見えるんだよね……何な

んだろうな……あれも立てるようになってから調べるか……

2ヶ月後……

やあ魔砲少女こと高町　なのはだよ　キラ

まあ中身は別だけどね。

さて、なのはになって2ヶ月だがやっと立てるようになった。(普通は1ヶ月ぐらいはかかりませう。)

とりあえず立てるようになったのでいろいろ試してみることにしました。

まずあの線の正体を確かめてみた。その結果、直死の魔眼だった。

なぜ？と思えば多重思考をフル活用して考えてみた。その結果、死んだから死にふれた。|| 直死の魔眼開眼。とゆう結論がでた。まあ使えるものが増えたいし問題ないだろう。

『アルファ・ステイグマ複製眼』で直死の魔眼を解析してデメリットを解除、『ボジティブファイPF・Zドバック・ゼロ』で強化、『スキルシ・エンド能力完成』で直死の魔眼を改造した魔眼を作成した。もちろんON・OFFの切り替えも完璧である。

さて……立てるようになった俺は『ザ・ワールド』を試した。

「あつあつあつーあつあつー！(ザ・ワールドー時よ止まれ!)」  
onまた言えなかった。

どうやら立てるが言葉は無理みたいだった。

しかたない『ザ・ワールド』が使えないなら他のも試すのはまずい  
……とりあえず月読を試してみるか……

結果月読は成功して俺は一瞬が72時間になる体験をした。

月読は問題ないな………そういえばリンカーコアはやっぱりなのは  
と俺のは別だった。

まあ二つあると面倒だから1つにまとめた。その結果、なのはの魔力……たしかAAAぐらいだと思うが、それが俺のSSSオーバーの魔力に吸収された。そしてなのはのレアスキルである、『魔力収束』も取り込んだ。ちなみに俺の魔力は性質変換ができるらしく一応、『氷』と『青い炎』が使えた。あとレアスキルとして『次元跳躍』があった。

『次元跳躍』とは簡単に説明すると単体で次元を跳躍できるものだし、しかも距離とかは関係ないらしい。

と『アルファ・ステイグマ複写眼』の解析結果で出ていた。

さて………今できるのはこれぐらいしかないな。ああ、早く喋れるようになりたい。

さらに2ヶ月後……

「やっとしゃべれるようになったのはだよ」

まだうまく喋れないがなんとか喋れるようになったぜ。

しかし田村ゆかりさんボイスだね。いつか声優ネタでもやるか。

よし『ザ・ワールド』をためすか。

「ぎ・わ〜ると、ときよとまれ」

つと発動したか？

俺は時計の針を確認した。針は止まっている。

よし！成功だ。次はいろんな世界の魔法や魔術とか忍術を試してみるか。

そして俺は時の止まった世界で色々やり始めるのだった。

そして3年後……

「どうも、高町 なのは 3歳です。」

って誰に挨拶してるんだ！

しかし、なのはになってもう3年か……この3年間は色々あったな……永全不動八門一派・御神真刀流小太刀二刀術（以下御神流として表示）の技や奥義を見ただけで覚えたり……ああちなみに家族には言っていない。あと御神流の技と奥義ははっきり言って『神速』以外ほとんどつかいものにならなかった。『神速』ですらまああのレベルであった。じっさい俺には『ザ・ワールド』があるからな。まあメリットは発動に詠唱がある『ザ・ワールド』とは違い、『神速』ならすぐ発動できる。まあ世界がモノクロになる感覚は面白かった。

といっても俺は常にイザナギを使っているから死なないけどなW

ちなみに最近は月読を応用して修行している。まあ簡単に説明すると……多重影分身の術をつかい分身を作成。ちなみに1000人くらい。

そして全員に月読にかけて幻術空間へ。

幻術空間で某英霊達やどっかの無敵軍隊や艦隊、他の作品のチートキャラやバグキャラとたっぷり戦闘せさせている。

ちなみに現実では1日だが幻術空間では……ああ…数えるのがめんどくせ……

まあかなりの時間を経験しているのである。

ちなみに分身達はネギま！の影魔法で作った俺の影の中に入れてある。寝る前に分身を消して起きたら作るの繰り返しだがこれが馬鹿

にならないほどの経験値を稼いでくれている。

おかげで俺はオリジナルの魔法や剣術の作成にとりくめるしらくである。

まあ一応、運動神経がよくて勉強もできる内気な少女でとうしているからあまり派手なことはできないんだけどね。

まあまだ3歳なんだしあせることはない。まだミットチルダの座標が特定できないけど特定が完了しだい行くつもりだ。

ちなみに座標の特定は分身を飛ばしているだけだが……まあ数撃ちやいつかは当たるだろう。

それと……最近、桃子さんのオーラが怖く感じるようになった。

どうも俺の一人称が俺なのが原因らしくちょっと前にO H A N A S H I させられた。

あれは久しぶりにあじわった死の恐怖だった。(ちなみに最初にあじわったのは餓死する58秒前です。)

それ以降、俺の一人称は人前で猫かぶりの時のみ私である。

まあ桃子さんに殺されるよりはマシだろう……

他にもシスコンヤローに、「教えてくれ、俺はあと何人殺せばいい」とか「チーム名はリトルバスターズだ!」とか言わせて遊んでみたりしている。

中の人ネタですねW

とまあ毎日楽しくやっています。

あと父は最近「なのは〜一緒にお風呂にはいるう〜」「とか言ってきたので丁重にお断りしたら3日ぐらいいじけてました。

へ？高町 美由希？デレデスカソレ

なのはに転生!?!…… (いえ憑依ですbY作者) (後書き)

感想をお待ちしております。

父が逝ってしまいました。……（死でいませんb y作者）（前書き）

このなのはは田村ゆかりさんボイスです。がんばって脳内変換してくれい。

父が逝ってしまいました。……（死でいませんb y作者）

どうも5歳になった高町なのはです。

ついに父である高町 士郎が吹っ飛んだそうです。

おかげで俺は家族にほっとかれっぱなしにされています。

まあ寂しくともなんともないですけどねW

最近<sup>アンリミテッドブレードワークス</sup>は神社の近くの森に行つて『無限の剣製』から取り出したFF  
?のセフィロスの使っていた長刀『正宗』を両手に持ち色々技を試  
してみる。

「双剣！燕返し！」

右手で同時に3太刀、左手で同時に3太刀をくりだす。しかし……

「やっぱりまだ右手のほう<sup>が</sup>少し遅れてる。」

やはりなのはは左利きだから右の反応が少し遅いのか……

などと考えていると近くの茂みになにか気配をかんじた。

迷わず俺は左手の『正宗』を投擲した。

手ごたえは……無かった。俺は確認のため茂みにちかずいた。そ  
こには……

「狐？」

気絶してる狐がいた。

この狐を『アルファ・ステイグマ複写眼』で解析した結果、もと妖狐の祟り狐ゆう結果が  
でた。

とゆうことはこいつは久遠か……まさかとらハ3のやつがここにいるとは……でも祟り狐じゃ無いつてことは、もう祟りは取れた後なのか？だとしたら時間列がすこしおかしくなるのか……

まあ気にしないでおこつ。お！久遠も起きたみたいだ。

「クウン〜」

「おきたの？さっきはごめんなさいなの」

ザ・猫かぶりモード発動！！

「君の名前はなんてゆうのかな？」

「クウン〜」

だめだまったく理解できない………よしこは……

久遠にばれないように『ゲート・オブ・バビロン王の財宝』から動物の言葉がわかるように

なりすかされるようになるとうわげのわからんロストロギアの原点を取り出し、『アルファ・ステイグマ複写眼』で解析して使い方を確認した。

この飴玉みたいなロストロギアを食べればいいのか……

俺はロストロギアを食べた。

「さて……君の名前はなんていうのかな？私のは、高町 なのはだよ」

「久遠」

お通じた通じた。って久遠がいきなり俺に飛びついてきた。

「うわ、いきなりどうしたの久遠？」

「なのはいいにおいがする」

これが動物に好かれるということか……しかし動物はかわいいな……

さういえば久遠ってどこかで飼われていたような……「久遠はどこに住んでるの？」

「昔は神社で暮らしていたけど那美が用事で出かけたから今はこの森に住んでる。」

へー那美さんはいないのか……じゃあこのまま久遠をお持ち帰りしていいかな？……いいよね。

「それなら私と一緒にくる？」

「いく〜」

よし久遠ゲットだぜ！

俺は久遠をつれて帰り桃子さんに飼っていいか聞いてみた。

いそがしかったのだろうかちゃんと世話をするならOKと言われた。

こうして久遠は私のペットになった。

そして2ヶ月後……

ついにミッドチルダの時空座標が判明した。

「久遠。俺は今ら出かけるけど一緒に来るか？」

「いく〜」

ちなみにこの2ヶ月で俺は久遠に対しての猫かぶりをやめた。

最初は驚かれたけど今では特になにもなく一緒に遊んだり修行したりしている。

あと久遠の言葉は周りの人には「クウン〜」って聞こえるらしく俺は普通に喋っているそうだ。

俺は久遠を抱きかかえミッドチルダの座標に跳躍した。

そして俺達はミッドチルダの首都グラナガンに到着した。

「なのは……「」ど「」？」

念話で不安そうに久遠がたずねてきた。

ちなみに久遠とは家の外では緊急時以外念話で話すことにしている。

「久遠は別の次元があるって信じる？」

「よくわかんない。」

「う〜んとね。簡単に言うと俺や久遠が住んでいる次元世界とは別にいくつもの次元世界があるんだよ。それでここは全ての次元世界の基点として第1世界と称されている次元世界それがここミッドチルダなんだ。そして俺達が今いるのはこの次元世界の首都のクラナガンってところ。わかった？」

「なんとなく……それでなのはは何しにここに来たの？」

「魔法のことを調べにきたんだよ。まだ色々わからないことが多くてね。」

「 そうなんだ〜 」

「 それじゃあちょっと待っててね。すぐに終わるから。 」

「 うん。 」

「 ザ・ワールドー、時よ止まれ。 」

俺は『ザ・ワールド』を唱えてミッドチルダ全体の時を止めた。

もちろん久遠も止まってしまいがこれは仕方の無いことだ。

俺は久遠を影の中に入れてミッドチルダのあらゆる場所を見て回った。

たいてい俺は一度見てしまえば完全に記憶できる。 まあ影分身も使うからすぐ終わるだろう……

そして作業自体は12時間ぐらいで終了して俺は管理局の不正の塊のデータとミッドチルダ式魔法、ベルカ式魔法、デバイス作成の知識と技術、あとは次元航行艦船のデータとアルカンシエルのデータ……その他色々てにすることができた。

じっさい一番の驚きが俺はアルカンシエルを単体で使えるとゆうことだった。

さて……もうすることが無くなった俺は『ザ・ワールド』をといて久遠と一緒にミッドチルダを遊びまわし日が暮れてきたので地球に

帰った。

余談だが数ヶ月後、父である高町 士郎が復活して俺は心の中で泣きながらお祝いした。

父が逝ってしまいました。……（死でいませんb y作者）（後書き）

感想をお待ちしております。

私立聖祥大附属小学校入学……なんてしたくなかった。(前書き)

今回はなのはさんのチートスペックの一部とシスコン討伐の話です。

私立聖祥大附属小学校入学……なんてしたくなかった。

どうも高町　なのは　6歳です。

今日から俺はピカピカの1年生になります。……

正直めんどくせー俺は一応前世では東大でてるんだけど……

でも行かなかつたら桃子さんに殺されるだろうし……だから仕方なく通うことになった。

しかし、まだ問題があった。久遠である。

久遠は高町家ではなのは以外にはあまりなつかない。元飼い主の那美さんのところにも帰らなくなり「久遠の選んだことですから」と寂しげに言われたのはつい最近のことである。まあ週に1回は久遠をつれて遊びに行っているのだが……

まあその久遠は俺から離れたりしない、いつも俺の右肩に乗っている。

まあ俺は久遠のことはかわいいと思うし右肩にのろうがかまわないのだが……久遠は学校についてくるとか言い出したのである。

なんでも……なのはと離れるのいや〜」だそうだ。

そのせいで俺は学校に登校できずにいた。入学式から遅刻では示しがつかない。

「久遠、私は学校に行かないといけないの。学校には久遠を連れて行けないんだよ。」

ちなみに現在は高町家の玄関で長く伸びた俺の髪に久遠がつかまっている状態だ。

周りには父と桃子さんがいる。シスコンともう一人はすでに家を出ている。

そのため俺は現在、猫かぶりモードである。

あと俺はなのはになってから一度も髪の毛を切っていないため膝ぐらのまでの長さがある。と補足説明しておく。

久遠は結局、俺の髪を離さなかったので、桃子さんが仕方なく学校に連絡……

なにか怖い声が聞こえたけど……とりあえず無視だ。

そしてね電話を終えた桃子さんは……

「学園理事長にすこし O H A N A S H I したら特別にクーちゃんを連れて行ってもいいって許可をもらったわ。」

桃子さん……あんたいったいなにをしたんですか。………とは怖くて聞けないのである。

ちなみにクーちゃんとは桃子さんかえつと……たしか俺の姉がそう呼んでいる。他は普通に久遠とよんでいる。

それはさておき、とりあえず許可が出たので俺は久遠を右肩にのせて学校に行った。

「よかったね久遠」

「うん！」

そうやって久遠は俺の顔に自分の顔を摺り寄せてきた。

学校まではバスが出ているからそのバスに乗り込んで俺はあいている席に座り、久遠と念話しながら学校につくのを待った。

そして入学式が終わり俺は自分のクラスに向かった。そのあと簡単な自己紹介があったが特に何もなく終わった。

久遠については生徒たちがざわついたが先生はどうやら知っているようで特別に許可されている。と説明してくれた。

とりあえず今日はもう帰るだけなのだが……

「おいお前！」

とりあえず今日はすることが無いし学校の中を見て回るか……いいい昼寝場所を見つけられるかも知れないし……

「おい！聞こえてんのか！」

と私の机をたたいてる男子生徒に目を向けた。

「何かよう？」

そこにはいかにもガキ大将ってゆう面構えのガキといかにも取り巻きみたいなきみが2人いた。

「お前のその狐を俺によこせ。」

ガキ大将はいかにも久遠が自分の物でもあるかのように言った。

「何で私が君に久遠を渡さないといけないの？」

俺は正論を言っつてやるとガキ大将は……

「うるせーよ俺が渡せつて言っつてるんだから渡せよ！」

と意味不明なことを言っつてくる。

付き合いきれんな……

そう思い俺は席を立ててガキ大将達に背中を向けた。

「無視してんじゃねー」

と叫びながら殴りかかってきた。

遅いな……

そう思いなが俺はガキ大将の手を掴みそのまま背負い投げの要領で投げ飛ばした。

ドガシャーーーーーン

派手な音を立ててガキ大将は机に激突した。

そして俺はガキ大将に近ずき腰を下ろす。どうやら気絶はしなかったようだが呼吸が可ましい……………まあどうでもいいが。

「とりあえず女の子を後ろから殴るのは関心しないよ」

そう言っ俺は彼の顔面に手加減して殴った。

そして気絶してしまったガキ大将をほっという俺は教室から出た。

あのあと学校を一通り見て回っていい昼寝スポットを見つけた俺は家に帰った。

そして、家に入ったとたん桃子さんに抱きつかれた。

どうやら学校の事が先生を通じて桃子さん達に伝わったらしい。

周りの証言で俺が正当防衛であると判断され俺はお咎め無し。

あのガキ大将は全身打撲に顔面強打、おまけに肺が少し損傷したらしく入院……………

ガキ大将の家族が何か言ったらしいが完全に加害者なためただ騒

いであるだけに終わった。

とりあえず桃子さんに「大丈夫だよ」と言ったら離してくれた。

する父が真面目な表情で「なのは。動きやすい服を着て道場に来なさい。」と言って道場に向かった。

仕方なく自分の部屋で着替えて道場に向かった。

そこには父とシスコン、それと……誰だっけ？

「美由希だよ。」

おおそくだそくだ俺の姉の美由希さんだ！特徴が無くて忘れてた。ありがとう久遠。

それはさておき……「なんでここによばれたの？」

「なのは、お前、剣の道に興味はある「無いなの」……………」

と俺は父の言葉わ途中で切った。御神流なんてやるよりオリジナルの技を作るほうが楽しい。

「と、とりあえず恭也と少し打ち合ってくれないか？なのはには才能があると思うんだ」

この父は人の話を聞いているのだろうか？

「もしなのはが恭也に勝てたら何でも好きなものを買ってあげるよ。」

「

へ？まじで！よし殺るかー

「やるなの」

そう言っただ俺は美由希に防具をつけてもらった。まあ自分で着れるけど一応ね……

恭也はこの時、なのはにはどんな才能があるのだろ……と考えるおり。

士郎はやっぱり子供だな……などと考えていた。

さて、準備が完了した。とりあえず俺は少し長めの木刀を構えてシスコンの前に立った。

「さあなのはどこからでもかかってこい。」

シスコンは防具はつけず小太刀に見せかけた木刀を2本持って構えている御神流の基本の構えだ。

「それじゃあお言葉に甘えて………一刀・燕返し（かなり小声で）  
そう言っただ俺はシスコンめがけて同時に別方向から3太刀を浴びせた。

その1の太刀には反応したが2の太刀と3の太刀はもろに食らいシスコンは道場の壁に吹き飛ばされた。

周りがポカーンとしているがとりあえず勝てたので……

「それじゃあお父さん。新しくでたPC買ってね。」

「ああ……」

父の返事を録音して俺は道場をあとにした。

士郎は思った。なのは間違いない逸材だ。必ず御神流を継承させるよ。

そして翌日、士郎の財布はなのはの希望どおりハイスペックPCを買わされてせいで軽くなってしまい、そして、なのはに御神流の話を持ちかけたら「興味ないの」と言われたのだった。

そして、士郎の八つ当たりにより恭也と美由希の修行がかなり厳しくなったのは別の話……

私立聖祥大附属小学校入学……なんてしたくなかった。(後書き)

感想をお待ちしております。

退屈な日々……壊してしまいたい。(壊さないでくださいb y作者)(前書き

今回は友達ができる話……

退屈な日々……………壊してしまいたい。(壊さないでくださいb y 作者)

こんにちは、高町 なのはです。

俺は今学校にいますのですがとても暇です。だって……

「皆さん。1 + 1は？」

「……」

「……」  
以外のクラス全員)

とゆうレベルの授業内容ですよ。暇になりますよ。

それに久遠だって机の上で気持ちよさそうに寝ています。……………俺も寝ましようか……………

あ！もし授業中に寝てるのが桃子さんにはれたら……………

なにかノートに落書きでも書いて暇をつぶしますか。

そしてお昼やすみ……………

適当に書いていたイラストを完成させるといつの間にかお昼休みだった。

ちなみに書いた絵はコードギアスのルルーシュを性転換させたやつを書いた。

さて…腹は減ってないからいつもの場所で昼寝でもしますか。

そう思い、机の上で寝ている久遠を起こさないように抱き上げて昼寝スポットに向かった。

昼寝スポットに着いた俺は久遠と一緒に横になった。まあ昼寝スポットと言っても日当たりのいいベンチなんだけどね。

俺は久遠を抱き枕にして目を閉じた。

「……………かえ……………し……………」

「……………と……………あ……………」

ん？なんだ？誰だ俺の睡眠を邪魔するのは……………

俺は目を開いた。

そこには女の子2人がケンカをしていた。

たしか月村　すずかとアリサ・バニングスか……しかしあれだなるるさいな。

状況から見てアリサ・バニングスが月村　すずかの物を取っつけているようだ。

しかたない止めるか……ほっといたら久遠も起きてしまうし……

「おいそこの2人ケンカなら他所でやってくれ」

「へ？」

アリサ・バニングスはいきなり声をかけてきた俺に驚いている。

月村　すずかの方はアリサ・バニングスが動かないうちにアリサ・バニングスが手に持っていた物を奪った。

「あ！なんてことをしてくれるのよあんだ！」

アリサ・バニングスは俺を睨んできた。月村　すずかの方はアリサ・バニングスから奪った物を大事そうに抱きかかえている。

「はあ……大体いじめなんてかつこ悪いぞ。」

「あんたには関係ないでしょうが！」

「お前のつまらぬいじめのせいで睡眠を妨害された。」

「あ、あんたね！」

とアリサ・バニングスは殴りかかってきた。

女の子なので俺は右に避けてアリサ・バニングスの足をなぎ払った。

するとまあみごとにアリサ・バニングスはこけた。

ああちなみに男なら背負い投げを食らわしますよ。

みごとにころんだアリサ・バニングスは立ち上がって睨んでくるので俺は少し本気の殺気を当ててみた。

「ッ！」

どうやら月村 すずかも殺気に反応して顔を青くしている。

アリサ・バニングスは今にも死にそうな顔をしている。

「とりあえずもうこんなくだらないいじめはやめるんだな。あとちやんと月村 すずかにも謝っておけよ。」

とその時、昼休み終了のチャイムが鳴った。

俺は放心状態の2人を置いて、久遠を抱き上げ教室にもどった。

そしてこれから数日後……

俺はアリサ・バニングスと月村　すずかにお礼を言われた。

あの後、2人は色々話し合い友達になったそうだ。

そして俺とも友達になりたいそうだ。

まあ俺としては、断るつもりも無いのでOKした。

これにより俺は2人の友達を手に入れた。

余談だがアリサとすずかの前で猫をかぶるのを忘れてしまい、このことが桃子さんの耳に入ってしまった桃子さんのO H A N A S H I を食らいました。こうして俺の一人称が私に代わりました。

退屈な日々……壊してしまいたい。(壊さないでくださいb y 作者)(後書き

感想をお待ちしております。

無印編開始時のなのはさんの設定……（前書き）

今回はなのはの設定……

かなりの独自解釈を含んでおります。

無印編開始時のなのはさんの設定……

高町 なのは

高町家の次女で私立聖祥大附属小学校3年生（9歳）。父・土郎、母・桃子、兄・恭也、姉・美由希との5人家族。自称「平凡？な小学3年生」

髪の毛は長く伸ばしており膝ぐらいまである。前髪は目が少し隠れるぐらいだが怒ると完全に隠れる。

動物好きでとくに久遠のことを大切に思っている。

文武両道でテストの成績は常に全教科100点。剣術ではおそらく地球人では誰も勝てないレベルの強さを誇る。特技は『燕返し』。

身体能力は化け物並みで生まれたときから人外レベル。現在は修行により増大している。

さらに、リンカーコアの魔力とネギま！の魔力。 Fate/stay nightの魔力、ゼロの使い魔の精神力、 NARUTOのチャクラ、気、霊力、妖力、神力、生命力、を使うことができ別世界の魔法や忍術、妖術なども使える。

リンカーコアはなのはのリンカーコアと神からもらったリンカーコアが2つ存在していたため1つに融合した。その結果、なのはの魔力……なのはのAAAの魔力が神からもらったSSSオーバーの魔力に吸収された。そしてなのはのレアスキルである、『魔力収束』も取り込んだ。魔力光の色は濃い青色。

普段は猫をかぶっているが久遠とアリサ、すずかの前ではかぶっていない。

6歳まで一人称は俺だったが桃子さんとの O H A N A S H I  
により私に強制変更。

管理局の不正の塊のデータを持っており公開したら管理局を転覆させることが可能。

ミッドチルダ式魔法とベルカ式魔法の魔法をほとんど使用可能でいくつかのオリジナル魔法も作成している。

デバイス作成の知識と技術をフル活用してレイジングハートの改造計画を立てている。

人間なのになぜかアルカンシエルを発射可能。

保有スキルは……

『アルファ・ステイグマ複製眼』……『アルファ・ステイグマ普通の複製眼』とは違い解析に特化しており、相

手の魔法や技、身体構造の全のモノを0.001秒で解析できる。  
0.001秒以内に相手が技や魔法をキャンセルしても解析が可能。  
ちなみに相手の存在を解析し解除することで消すこともできる。

『万華鏡写輪眼』……『アルファ・ステイグマ複写眼』で解析した技や魔法をコピーすること  
に特化した『万華鏡写輪眼』でありコピーに使用する時間は0.001秒である。  
『万華鏡写輪眼』単体としての能力は視力の強化と月読とイザナギしかない。  
ただしどれだけ使用しても視力を失うことは無い  
ためイザナギを使用しても視力はなくなるらない。

『アルファ・ステイグマ複写眼』で解析し『万華鏡写輪眼』でコピーした  
『見稽古』……『アルファ・ステイグマ複写眼』で解析し『万華鏡写輪眼』でコピーした  
技や魔法を完全に自分のモノにするのに特化している。ちなみに所  
要時間は0.001秒。『見稽古』だけの能力は身体能力の強化と  
天才の才能をてにいれることができる。

『ボジティブフィードバック・ゼロPF・ZERO』……『アルファ・ステイグマ複写眼』で解析し『ボジティブフィードバック・ゼロPF・ZERO』  
でコピーし『見稽古』で完全に自分のモノにした技や魔法を増幅さして  
強化するのに特化した能力。『ボジティブフィードバック・ゼロPF・ZERO』所要時間は0.0  
01秒。単体の能力は全てのフラグメントの使用可能と小規模のビ  
ックバンをおこすことが可能である。

『スキルジ・エンド能力完成』……『アルファ・ステイグマ複写眼』で解析し『アルファ・ステイグマ万華鏡写輪眼』でコピーし

『見稽古』で完全に自分のモノにし、『ホジティブファイドバック・ゼロPF・ZERO』で増幅させて強化した技や魔法を完成させて安定させることに特化した能力。所要時間は0.001秒。『スキルジ・エンド能力完成』の単体の能力はオリジナル魔法やオリジナルの技を完成させることができる。

以上の能力を同時に使うことで相手は何らかの技の構えをしたら、なんらかの魔法を使用しようとしたらその0.005秒後には強化された相手の技や魔法が使うことができる。

『ザ・ワールド』……時を止めることができ制限時間もなくデメリットも無い。範囲は自由に設定できる。

ゲート・オブ・バビロン  
『王の財宝』……本来入っている全ての宝具の原型の他に全ての口ストロギアの原型もは入っている。指を鳴らすだけで展開が可能となっている。

アインリミテッドフレイドワークス  
『無限の剣製』……現実を侵食し無限の剣が刺さった丘の世界を展開することができる。その丘に刺さった剣の中には別世界の剣もあつたりする。指を鳴らすだけで展開することができる。あとこの世界からは自由に剣を持ち出すことができる。

『人としての限界を突破』……文字どうり人としての限界を突破できる能力。鍛えれば鍛えるだけ強くなれる。

『全ての才能』……文字どうり全ての才能をてにいれる。これにより何をしてもたいていは成功する。現在のなのはの場合、一七実（見稽古）の才能+全ての才能+元から持つ才能+なのはの才能となっている。

『多重思考』……別々のことを考えたりできるようになる。現在のなのはは59個の多情思考を持っており同時に59個のことを考えたりできる。

『3つの権利』……神様にもらった3回だけどんな願いごとでも叶えてくれる権利。

性質変換『氷』……魔力を氷に変換することができるようになる。  
特徴はすっごく寒い。性質変換『青い炎』……とは同時使用が可能。

性質変換『青い炎』……魔力を青い炎に変換することができるようになる。特徴は「今のはメラゾーマではないただのメラだ」みたいなことができる。性質変換『氷』とは同時使用可能。

『直死の魔眼』……万物全ての死を見ることが出来る。デメリットは無く、ON・OFFの切り替えも可能。さいきん自分の死が見えなくなってきたらしい……

『魔力収束』……もとのなのはさんのレアスキル。魔砲少女としては常備スキル。周りの魔力を収束することができる。

『次元跳躍』……簡単に説明すると単体で次元を跳躍できるようになるしかも距離とかは関係なくどんな障害にも邪魔はされない。

これだけの能力なのに桃子さんには一生勝てない。

無印編開始時のなのはさんの設定……（後書き）

感想をお待ちしております。

無印編スタート……そして転生者（かませ犬）（前書き）

やっと本編をはじめられる……

無印編スタート……そして転生者（かませ犬）

どうも高町　なのはです。

私は今、学校に行くためのバスを待っています。

たぶん今日が淫獣との出会いの日だと思えます。

昨日の夜に空から何かが降ってくるのを確認しましたし……しかし、あの淫獣どうしても拾わないといけないのかな？

でも拾わないとレイジングハートが手に入らないし……仕方ない、拾うか。

「　なのは、どうしたの？」

と私の肩の久遠が心配そうに聞いてきました。どうやら顔に出てたようです。

「　大丈夫だよ久遠。心配してくれてありがとう」

と私は久遠の頭をなでてあげました。

そうして久遠とじゃれあっていると後ろからいやな気配が近づいてきました。そして……

「　なのはさーーーーーん」

その嫌な気配の発生させている人物から声が上がりました。

この嫌な気配の人物の名前は 鎌瀬<sup>かませ</sup> 伊濡<sup>いぬ</sup> どうやらこいつは転生者らしく、『複製眼<sup>アルファ・ステイグマ</sup>』で解析した結果、魔力はSSSオーバー（私よりは低い）でやたらと頑丈みたいだった。

神に聞いてみた結果、別の神がミスつたらしい。そしてそのミスつた神がこいつに与えた能力はなんでも「高町 なのはを俺の嫁にするための能力をくれ。」だそうだ。

それを聞いたとき正直思った。こいつは馬鹿だと。

まあ実際、解析結果でも私だけに有効な協力的な催眠魔法とか呪いが大量にかけてあった。

しかもこいつは初めて会った私に抱きつこうとしてきたので『ザ・ワールド』で時を止めて宇宙空間まで蹴り上げて、12方向からアルカンシエルを同時発射して『ザ・ワールド』を解除した。

もう現れないだろ……と思っていたが、その翌日普通に現れた時は私もひびった。

それからは毎日のようにストーカー行為をつつてくるのではつきりと言つてやったのだが……

「照れているんだね。大丈夫だよ。君の気持ちはちゃんとわかってるからね。」

とか言ってきたのでアルカンシエルを今度は24方向から同時に食らわせたのだがそれでも生き延びていた。

つと、考え事をしている間にもこの変態（かませ犬）が抱きつこうとしてきたので手刀で『燕返し』を本気で食らわせた。

目と首と心臓に一発つづ食らわせた。普通なら体が三つに分かれるぐらいの威力があるのだが……

変態は吹っ飛んで壁に叩きつけられて気絶した。

なんで死なないんだ？ちゃんと『直死の魔眼』も使ったのに……

とりあえず私は変態の周りに周りから見えなくなる魔法とあらゆる世界の拘束能力をもつ魔法や魔術、忍術で変態を拘束しておいた。

作業はだいたい5秒ぐらいで終了し私は再びバスを待つのだった。

「あいつヘンタイ嫌い。」

「そうだね、私もあいつヘンタイは嫌いだよ。」

と久遠と話しているうちにバスが来て私はバスに乗り込んだ。

バスに乗り込んだ私は迷わず一番後ろの席に向かった。そこにはアリサとすずかがいた。

「おはようなのは（ちゃん）」

「おはよう。すずか。それとアリサ。」

「私はおまけかー」

などと騒いでるアリサを無視して私はすずかの横に座る。

そして、すずかと会話をはじめる。

「無視するなー」

とアリサがバーニングしそうなので謝って3人で会話をはじめた。

そして、バスが、学校に着くまでの時間を有意義にすごした。

時は飛んで昼休み……

私は久遠とすずかとアリサと一緒にご飯を食べていると……

「なのはさー」

変態が現れた。

……もうなにも言わないでもよかろう……

変態は私に突撃してくるが途中で黒い装束を着た集団にはばまれた。

「我々なのはさん親衛隊である！鎌瀬！いい加減になのはさんに  
対するストーカー行為をやめるんだ。なのはさんが迷惑しているだ  
ろ。」



「まったく毎度毎度、……」

アリサ、その意見には同感だかなんでどっちが勝つかのトトカルチヨをやっているんだ……そして参加するなよ他の女子！！

結局、この後先生が乱戦を沈め、戦いは引き分けになった。

そして、その後先生のありがたい O H A N A S H I により下校時間が遅くなってしまうのだった。

放課後……

下校時間が遅くなってしまったためアリサとすすかは車で塾に向かうことになり塾に行っていない私は学校の校門で分かれて（いつもは途中まで一緒に行くことになっている。）私は淫獣ユウビが倒れてる森にきました。

「なのは、どうしてここに？」

「うんちょっとね。」

そう久遠に言っつて私は森の中を歩くと……

「……誰……ます……」

「なのは、これって……」

「念話だね……」

私達は念話が聞こえる方向に向かって歩く……念話の声もだいぶ鮮明になってきた。

「なのは、近づいてるよ」

「そうだね、この辺りだとは思っただけど……」

とりあえず探してみるのだが……

「聞こえますか、僕の声がきこ……グベ……」

ん？なにか今踏んだような気が……

「なのは、足元……」

と久遠に言われて足元をみるとそこにはピクピクと痙攣している淫獣……

「あ……もしかして踏んじった？」

コクコクと久遠は首を立てにふる。

「とりあえず持って帰って治療するか……」

私は淫獣コクを掴んで家に帰った。

余談だが淫獣ユウノの怪我はそれほどひどくなく数時間程度で目をさます。  
と『アルファ・ステイグマ複写眼』で解析した結果が出たので何もせず放置した。

無印編スタート……そして転生者（かませ犬）（後書き）

感想をお待ちしております。

戦闘にすらならない戦い……………（前書き）

レイハさんの言葉は全て日本語で表します。

戦闘にすらならない戦い……………

私は淫獣<sup>ユウノ</sup>が起きるまで暇だったので久遠とじゃれあって遊んでいた。

そして1時間後……………

ようやく淫獣<sup>ユウノ</sup>が目を覚ました。

そして、いきなり「助けてください。貴女の力が必要何です。」と言われたのでとりあえず淫獣<sup>ユウノ</sup>の話聞いてみた。

内容は原作と一緒別の世界があつてそこで淫獣<sup>ユウノ</sup>の一族がジュエルシードを発掘。管理局に回収を頼んだが管理局の次元航行船が事故つて地球にジュエルシードを落としたらしい。

それで責任を感じた淫獣<sup>ユウノ</sup>が1人で回収にきた。らしいが……………

「それで私は何をしたらいいの？」

「協力してくれるの？」

「そのジュエルシードっていう物は危険なんでしょ？だつたら放置何てできないよ。」

はい全くの嘘です。目的はただレイジングハートとフェイトに会えるからです。

「ありがとう。僕はユウノ。ええっと……………」

「高町　なのは。魔術使いだよ。こっちは相棒の久遠」

「>よろしくユーノ<」

「よろしく……ところでなのは、魔術使いつて……」

「ええつとね……」

と私が説明しようとしたら何かが近づいている気配に気づいた。

「なのは?」

「何かが近づいてきてる。」

そう言うと淫獣ユウジュは目を閉じた。気配を探っているのだろう。

「これは……ジェルシードの思念体!」

やっぱりか……

「とりあえず外に出ようか。」

私は久遠を肩に乗せて淫獣ユウジュを掴んで窓から外にでた。

「な、なのは!??」

淫獣ユウジュが何か言ってるけど無視して屋根の上を走る。

するとすぐにジュエルシードの思念体は見つかった。

「>気持ち悪そう…<」

と久遠が率直な感想を言ってくれた。

「確かにあれには近づきたくないね。淫獣ユウシヤは結界は張れる？」

「字が違う気がするけど……結界は無理だよ。まだ魔力が戻らないんだ。ところで何でなのはは結界の事を知っているの？」

「魔術使いだからね……さて、久遠はここで待ってね。」

私は久遠を下に下ろすと私はジュエルシードの思念体の前に立つ。

「

」

ジュエルシードの思念体は私を見るなり奇声を上げて突っ込んできた。

私は左手を掲げ指を鳴らした。

すると周りの景色が無限の剣の刺さった丘に変わった。

『アインシュテッドフレードワークス  
無限の剣製』

それがこの世界の名前だ。

「さあ、貴方が挑むの…」

……「……………」

……

……

ジュエルシードの思念体は奇声を上げて突っ込んできた。しかし、辺たりには丘に刺さった剣でうめつくされている。その剣をよけずに最短距離で突っ込んできたジュエルシードの思念体は当然その巨体は剣に当たる。その結果、ジュエルシードの思念体は剣に切り裂かれ消滅した。

「へ？もうおしまい？」

などとあまりにも以外な結末に驚きを隠せないがジュエルシードも青色の宝石に戻っているし……

「こんなのでいいのかな？」

色々と思うところがあるけどまあいいや。

私は『アンリミテッドブレイドワークス無限の剣製』……を解除して元の世界に戻す。

淫獣ユウノは今、目の前で起きた現象が信じられないのかフリーズしている。

久遠は私に飛び付いてきたので優しい抱き寄せて頭を撫でてあげた。やっぱり久遠はかわいいな。

さて……私は久遠を撫でながら淫獣ユウノに尋ねた。

「で淫獣ユウノ、あの青色の宝石がジュエルシード？」

まあ知っているんだけどあえて知らないふりをする。

私の声が聞こえたのか淫獣ユウノはフリーズ状態から復活した。

「そうだけど……なのは、さっきのはなに？」

「私の魔術。」

「魔術？」

「そう。ところでアレ、このままでいいの？」

私はジュエルシードを指差して言った。

「ああ！そうだった。なのは。これを使ってジュエルシードを封印して。」

そう言って淫獣ユウノは首につけていた赤い宝石を渡してくる。

レイジングハートですね。わかります。しかしここは、初めて見たような対応をしましょう。

「これは？」

「これはデバイスって言って魔導師が魔法使用の補助として用いる機械なんだよ。」

「へ〜でどうやって使うの？」

「ちよつと待ってね。管理権限！ 新規使用者設定機能！ フルオ  
ーブンー！！」

と淫獣ユウノが叫ぶと私の足元に魔法陣があらわれた。

「僕のあとに続けて同じことを繰り返して」

と言われたので適当に返事した。

「いくよ……我、使命を受けし者なり 契約の下、その力を解き放  
て 風は空に、星は天に そして、不屈の心は この胸に この手  
に魔法を……」

淫獣ユウシュが何か言っているがそんなのは無視して私はレイジングハート  
に話しかけた。

「とりあえず使用者として登録してくれる？」

《しかし、私には起動キーが設定されてます。》

…… 『アルファ・ステイグマ複製眼』

発動、対象レイジングハート、存在を解析、起動キ

ー設定を変更、デバイスの任意登録に設定。(この間0・12秒)

「できるでしょ？」

《できますね……何をしたんですか？》

「あとで教えてあげるよ。他言無用にしてね。」

《わかりました。新規使用者設定、登録 登録名 高町 なのは…  
……登録完了。これからよろしく願います。マスター》

「うんよろしくねレイジングハート。それじゃあ、レイジングハ  
ート、セットアップ」

《Stand by ready・Setup》

レイジングハートがそう言うのと私の体を光が包んだ。原作とは違い包んでいる光が桃色ではなく濃い青色だとゆうことだけだ。

《では防護服を設定します。ご希望がなければ私が最適化したものをバリアジャケットをご用意しますが?》

「うん。デザインはレイジングハートに任せるれどできたら機動性を重視してくれない?」

《わかりました。》

そして私の体にピッタリ合うバリアジャケット防護服が展開される。

形や色は一緒だがどうやらかなり薄く作ったようだ。

そして私の左手には杖状態のレイジングハートが握られている。

そしてその光景を見ていた淫獣ユウノは再びフリーズしていた。

「で、どうすればいいの?」

《呪文を唱えてください。》

「どんな?」

《マスターが思いついた言葉で結構ですよ。》

そんなのでいいのかレイジングハート……

「とりあえず……封印しろレイジングハート（かなり低い音程で）」

《了解。ジュエルシード封印 シリアルナンバー16》

ジュエルシードはレイジングハートの赤い宝石の中に取り込まれた。

「これで封印完了だね。」

《はい マスター》

「なのは、お疲れ」

「ありがとう、久遠」

とりあえず私は防護服バリアジャケットを解除してレイジングハートを待機状態にもどし淫獣ユウノの方を見た。

淫獣ユウノはフリーズしているのでとりあえず放置して周りに音が漏れなくなる結界を張り、私はレイジングハートに話した。

レイジングハートに私がどういった人物なのかを全てを……

――説明中――

《転生ですか……》

「やっぱり信じられない？」

《いえ、信じますとも。》

「ありがとうレイジングハート。あとこのことは他言無用だよ。」

《わかっていますよ。マスター》

さて……これで私の秘密を知るのは久遠とレイジングハートだけ……

……この2人は信用できるから問題ないだろう。

「とりあえず今日はもう帰ろうか。久遠も寝ちゃったし。」

《そうですね。》

そう言って私はレイジングハートと話ながら家に帰った。

「ああ、今度レイジングハートを魔改造するからよろしく。」

《マスター……!》

余談だが置いてきてしまった淫獣ユウシヤは自力で家にたどり着きました。

そのあと私は淫獣ユウシヤに魔術の説明をしました。

まあ簡単に言うと、この世界の魔法だよ。って言うとききました。

戦闘にすらならない戦い………（後書き）

感想をお待ちしております。

## レイジングハート魔改造計画ぱくとワン（前書き）

本編を遠く離れてレイジングハートを魔改造しにいけます。

レイハさんのキャラが崩壊します。

独自解釈の設定と勝手に追加した設定があります。ご注意ください。

## レイジングハート魔改造計画ぱくとワン

こんにちは、高町 なのは です。淫獣ユウジュを拾ってから3日がたちました。ジュエルシードの回収も順調にすすみ現在も、3つ回収できました。

しかし、最近、レイジングハートが私の能力についてこれなくなってきました。そこで……

「本日はレイジングハートを魔改造したいとおもいます。」

《マスター!!》

「ん?どうしたのレイジングハート?」

《本当に私を改造するんですか!!》

「大丈夫だよ。淫獣ユウジュには内緒でやるから。」

《そうゆう問題ではありません!!》

「大丈夫だって、天井の染みを数えていたら全て終わっているから」

《何が大丈夫なんですか!!むしろ大問題じゃないですか!!》

「大丈夫、大丈夫、淫獣ユリノにばれても「なのはさんが一晩でやってくれました。」って言えばいいから。」

《実際にありそうで怖いですよ。マスター》

まあ『ザ・ワールド』を使えば何でも出来るよな……

「っと、とりあえず冗談はこれくらいにして、レイジングハートもわかっていると思うけどこのままの状態でレイジングハートを使い続けたら壊れちゃうよ。」

《……》

「だから改造するんだよ。わかってくれる？」

《……わかりました。マスターにお任せします。》

「ありがとうレイジングハート。それじゃあ行こうか。」

《どちらにですか？》

「ミッドチルダだよ。レイジングハートを改造するためのパーツがいるでしょ。」

《わかりました。しかし、ミッドチルダまでは遠いですよ。どうやっていくつもりですか？》

「私のレアスキルの『次元跳躍』を使えば簡単だよ」

《そうですね。》

「それじゃあ……『次元跳躍』座標 ミッドチルダ。」

私がそう唱えると足元に魔方陣が展開さける。

《座標の設定完了。行けます。》

レイジングハートが座標を設定してくれたから前より楽に跳躍できそうだ。

「跳躍！」

そして私は跳躍した。

ミッドチルダ首都グラナガン

私は周りを見渡しミッドにたどり着いたことを確かめた。

無事にたどり着けたな……

と思っているとレイジングハートが、

《ところでマスター。》

「ん？なにレイジングハート？」

《ミッドの通貨は持っているのですか？》

「あー！」

言われて初めて気がついたのだがそうゆえばミッドのお金持っていないじゃん……………

《この前に一度来たことがある久遠から聞いたのですがそのときはどうしたのですか？》

「えっと……………私って見ただけで完璧に理解できるから……………」

《立ち読みで魔法関係やデバイス関係の技術や知識をてにいれたと》

「はい。そのとおりです。ちなみにデータ関係のものは管理局のマガコンピュータをハッキングして手に入れました。管理局の黒歴史といっしょに。」

《あ、貴女って人は……………》

「とりあえずそれは置いておいて今はどうやってお金を稼ぐかを考えようよ。」

《どれぐらいの額が必要なんですか？》

「100万あれば足りるよ。」

《100万ですか……どうやって貯めるつもりですか？1日では到底無理ですよ。》

「……………そうだ！アレを使おう！」

私は『ゲート・オブ・バビロン王の財宝』から『時間を跳躍する石』と呼ばれるロストロギアの原型を取り出す。

《なんですかそれは？》

「これは『時間を跳躍する石』と呼ばれるロストロギアの原型で時間座標をマーキングしそのマーキングした時間座標に戻るって能力をもつ石だ。」

《すごいですね。》

「今の時間座標にマーキングしておいたからこの時間に戻ることができる。だから多少時間がかかってももんだいは無い。ただしリミットは5ヶ月だ。それ以上は戻れなくなる。」

《タイムパラドックスの心配は、無いんですか？》

「私が2人存在している状態になるだけだから、私がもう一人の私に出会わない限り問題ない。」

《もし出会ったら？》

「私達を中心に大規模な次元震が起きるだろうね。」

《気をつけないといけませんね。》

「まあもう1人の私もこの石を使ったんだろうしその辺りは気をつけているだろうから問題は無いし思うよ。」

《そうですね。ではまずどうしますか？》

「とりあえず高収入な仕事をさがそう。」

《了解しました。マスター。私はネットに接続して探してみますね。》

「わかった。私は適当に歩いて探してみるよ。いいのがあったら教えてね。」

《了解しました。》

数時間後……

《マスター。いいのが見つかりました。》

「そう？こつちも面白いのが見つかったよ。」

そう言つて私はレイジングハートにさつき拾つたチラシを見せた。

《えつと……週に2回働くだけで高額収入！ボーナスもありで身分年齢をとはずに採用！勤務時間は夜間なので学生でも安心！……つてこれい絶対R-18指定ですよ。とゆうよりマスターはまだ9歳でしょ！》

「いや、ちよつと興味があつて……」

《まさかのカミングアウトですか！この小説をノクターンの方に載せるつもりですか！》

「あまりメタな発言をするな。半分冗談だ。」

《半分冗談つてもう残りの半分はなんですか！》

「……………」

《ちよ、何か言つてくださいよマスター！！》

まあ私だつて元男だけど今は女なんだし少し興味があつ……ゲホン、ゲホン、まあまた今度考えよう。

「まあ冗談はこれくらいにして、レイジングハートの方は何かいいのがあつた？」

《……………これです。》

そうやってレイジングハートは空中にウインドを開いた。

《Dimension Sports Activity Association 略称をD S A A 通称インターミドルと呼ばれる公式魔法戦競技会です。》

レイジングハートは空中に開いたウインドにはインターミドルの宣伝映像が流れてる。

これってVividにでた大会だよな。

「これがどうかしたのか？」

《この大会の世界代表戦の優勝賞金が100万なんですよ。》

「へ〜でもこの大会、10歳から19歳までが出場資格じゃなかった？」

《そこでマスターにはハッキングで偽造の戸籍を作ってもらいたいのです。》

「ああ、なるほどね。でもそれなら銀行にハッキングして資産を増やしたほうがはやくない？」

《そうゆう手もありますがマスターは強いですが魔道師相手の戦闘経験が少ないです。今のうちに経験をつまれるのもよろしいかと…  
…銀行にハッキングするのは最後の手段にしましょう。》

たしかにレイジングハートの言うとおりだ。私の訓練相手は殺して

も死なないようなやつばかりだし、一般の魔道師をあいてするときの手加減のレベルも考えないといけないな……

「じゃあレイジングハートの意見を採用するよ。まずは戸籍と住むところだね。」

《はい。管理局のマザーコンピュータをハッキングしてもばれないぐらいの技量を持っているマスターなら簡単でしょう。》

まあ余裕だよな。『ザ・ワールド』を使えば簡単だし……

「それじゃあやりますか……」

翌日……

どうも皆さん シオン マーセナス ……へ？お前は誰だった？  
ああ、すみません説明をしてみましたね。ではもう一度最初から……

テイク2

どうも皆さん 高町 なのはです。とりあえず昨日の事を説明しましょう。

あの後、ハッキングによる、偽造戸籍とマンションの一室を手に入れた私は部屋に迎いました。

部屋の広さは3LDKで備え付けのキッチンにテーブル、テレビに色々な家具が置いてありなかなかいい部屋でした。

あと今後の活動資金として昨日のうちに酔っ払ったヤーさんから財布を掏り抜いておきました。結構な金額が入っていたので、食費などの心配はありません。まあ無くなったらまた掏るだけですけどね。

そして偽造した戸籍の内容ですが……

氏名 シオン マーセナス

性別 女

年齢 10

家族構成 父（単身赴任により別世界に在住）

とゆうことになっています。なのでこれから私の名前は シオン マーセナス と名乗らせていただきます。

ちなみにレイジングハートはアイアスとゆう名前のブーストデバイ

スとして登録しておきました。もちろんハッキングで防護服も変更して黒いマントに黒いバイザーを付けて黒い服とズボンにしました。パリアジャケット

わかりやすい例が、劇場版ナデシコのテンカワさんです。

そうゆうことなのでこれからレイジングハートのことをアイアスと呼びます。

さて……インターミドルのけんですが、既に募集を締め切っていましたので適当なやつに事故にあってもらい、そのあいた枠にハッキングでねじ込みました。

それで今日は地区予選考会とゆうものがありました。それに行ってきました。まあ特に何もなく簡単な健康診断を受け、体力テスト、簡単なスーパリングの実技をさせられただけです。

今後の日程は4日後に地区予選が行われ、そのあとに都市本戦、その後都市選抜、そして世界代表戦が行われるそうです。

まあ世界代表戦もタイムリミットの5ヶ月以内にあることだし世界代表戦優勝をがんばって目指しますか。

余談ですが今回の私の武器はFF？のセフィロスの使っていた長刀『正宗』を2本つかい剣士として戦ってみようと思い、我流剣術ではかっこよくないため早流剣術となすけました。技は全部パクリみたいなものですけどね。

ああちなみに早流剣術の意味は単に早い流れとゆうそのままの意味です。

## レイジングハート魔改造計画ぱくとワン（後書き）

感想をお待ちしております。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6907z/>

---

魔法少女リリカルなのは もしなのはに最強形のチートを持った外道が憑依した

2011年12月31日01時45分発行